

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇
事業所名	小規模多機能型居宅介護三和	管理者	廣川 丈人

法人・事業所の特徴	「住み慣れた地域で自分らしく安心して過ごせるよう生活(介護)をお手伝いします。」の理念のもと、各々がその人らしい生活が継続できるよう小規模多機能の特性を生かした支援に努めています。人に優しい町(まち)づくりの考えが、地域に根(ね)を張り、広がっていくようにとの願いを込め、月1回「まちのね」活動を開催しています。
-----------	--

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	1人	1人	1人	1人	0人	2人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	サポートセンター三和を知って頂くために三和地域、左近地域の行事への参加を積極的に行う。	改善計画は達成可能な小さなものでも良いと思う。 事業所の年間目標に沿った内容も考慮したうえで具体的な設定を検討して欲しい。	改善計画をもっと具体的に簡潔にした内容でも良いのではないかと感じた。 課題と取組結果の書き方がそぐわない部分も見られたので書き方を工夫したほうが良い。	事業所自己評価の理解を深める。なぜその評価が必要なのか理由を考え、根拠ある支援を実践する。
B. 事業所のしつらえ・環境	新規事業も開設したので、看板に代わる玄関のレイアウトを検討し誰でも入りやすい入口を検討していく。	事業所の看板が無く、何の建物かわからない状況だった点について、玄関の看板について作成を検討していると事務より話が出ているので、作成次第取り付けを予定している。 しっかりした看板が出来るまでの間、簡易的な看板ではあるが作成し取り付けた。今回の説明をするまで気づかれていないため、もう少し目に留まる工夫が必要ではないか。	入りやすい事業所にするための工夫が必要になってくるのではないか。 →「まちのね」の参加について正面玄関ではなく、開催している地域交流スペースの窓を開放し、すぐ出入りできる環境を検討中。また、窓を開ける事で調理の香りも外に流れ視覚以外に嗅覚での宣伝にもなるのではないかと考えている。	サポートセンター三和と認識してもらえる入り口を作る。 まちのねにも入りやすい環境の検討を行い、作成に努める。
C. 事業所と地域のかかわり	回覧板でまちのね等宣伝の継続を行う。 地域の町内会長、地域の方へのサポートセンター三和の認知をしてもらう。 近隣店舗との繋がりの継続化をしていくために行事などへの介入を図る。	地域への回覧板での「まちのね」の周知を継続していることがわかった。回覧板が機能していない地区もあるという話も伺った中でどう宣伝していくかが事業所の周知に繋がって来る。「まちのね」の参加者の増加が難しい状況もある。周知を継続し、まず知ってもらう事が課題になるだろう。	三和・左近地区は工業所やアパートも多い地区でもあり、町内の雰囲気も消極的な地域性もある中で地域への発信や協力は難しいと思うが、継続して取り組んで入りやすい事業所を目指してほしい。 町内の行事等も参加し顔の分かる関係性を気付いていってほしい。	回覧板での案内を継続していく。 町内の行事への参加を行い、関係性を作っていく。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>事業所として地域に周知していただけるよう行事への参加、散歩の実施を行い、地域の方との交流を行える機会を設けていく。</p>	<p>地域の行事が少ない為に行事へ参加して事業所を周知していただくことは難しいが、車いすで利用者と外出していると周りの方には三和のご利用者であることが認識してもらえている。夜間帯の利用についても難しくなったので、夜祭にも参加が難しい状況も分かった。限られた時間の中で関わりを多く持てるように取り組んで欲しい。</p>	<p>行事への参加が少なかったように感じる。サポートセンターをコミセン的な使い方をしてもらえると認知度が上がるのではないかと。民生委員の名前も公表されているので活用して地域との関わりを持っていく。</p>	<p>地域包括支援センター、民生委員を始め運営推進会議参加者の皆様との情報共有を行い、ご利用者や地域の現状を把握し、対応策を検討していく。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>三和、左近地域の町内会長様、民生委員様、包括支援センター職員との関わりを持ち、地域の情報収集を行える関係性の構築を行う。</p>	<p>地域包括支援センター職員、民生委員を中心に関わりを持っていた。ご利用者の状況に応じ相談をさせて頂いたり、ボランティアとしての関わりをお願いすることも出来た。町内との関わりが少なかったように感じるので次年度に活かしたい。</p>	<p>事業所の報告だけではなく、地域の情報収集に活かせるような会議が行えれば良いと思う。他事業所の参加もあるので互いに情報交換を行い、より良い運営に活かしてほしい。</p>	<p>他事業所の取り組みを共有し、良い点を学び自事業所の取り組みに活かす。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>有事に対応できるように普段からの業務に防災への意識を持ち、支援を行う。地域の協力を得られるように近隣店舗への声掛けなどを行っていく。</p>	<p>台風19号の水害が実際に起こり、防災に対する良い経験となった。普段からの備えが必要になることや、動き方も勉強となったので今後の災害時に活かせるようにしたい。地域の方も避難できる場所であることの認識をしてもらうことも大事になってくる。水害だけではなく、様々な災害時の対策を検討しておく必要があると感じた。</p>	<p>夜間帯の避難について周りからの協力体制が必要であれば検討すべきである。備蓄品に関してはサポートセンター千手にたくさんあるので連携を図り対応していく。</p>	<p>災害時、緊急時に活用して頂けるようにサポートセンターの使用方法を周知する。</p>